

平成25年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面する課題について

平成25年12月24日
一般社団法人Jミルク

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

- ・全国の予測値は、北海道及び都府県の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・北海道及び都府県の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 25 年度の地域別生乳生産量（見通し）

(千トン)

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	650	100.1%	329	101.0%	322	99.3%
5 月	671	100.0%	343	101.0%	328	98.9%
6 月	638	99.4%	333	100.5%	305	98.3%
7 月	632	98.1%	333	98.5%	299	97.7%
8 月	608	96.5%	321	96.3%	286	96.7%
9 月	593	98.2%	311	97.7%	282	98.8%
10 月	608	97.0%	316	96.2%	292	97.7%
11 月	588	97.3%	304	97.0%	284	97.8%
12 月	617	97.7%	320	97.5%	298	98.0%
1 月	631	97.9%	325	97.9%	305	97.8%
2 月	580	97.6%	297	97.1%	283	98.1%
3 月	649	97.7%	329	97.5%	320	97.8%
第 1 四半期	1,960	99.8%	1,004	100.8%	955	98.8%
第 2 四半期	1,833	97.6%	965	97.5%	868	97.7%
第 3 四半期	1,814	97.3%	940	96.9%	874	97.8%
第 4 四半期	1,860	97.7%	951	97.6%	909	97.9%
上期	3,792	98.7%	1,969	99.2%	1,823	98.3%
下期	3,674	97.5%	1,891	97.2%	1,783	97.9%
年度計	7,466	98.1%	3,860	98.2%	3,606	98.1%

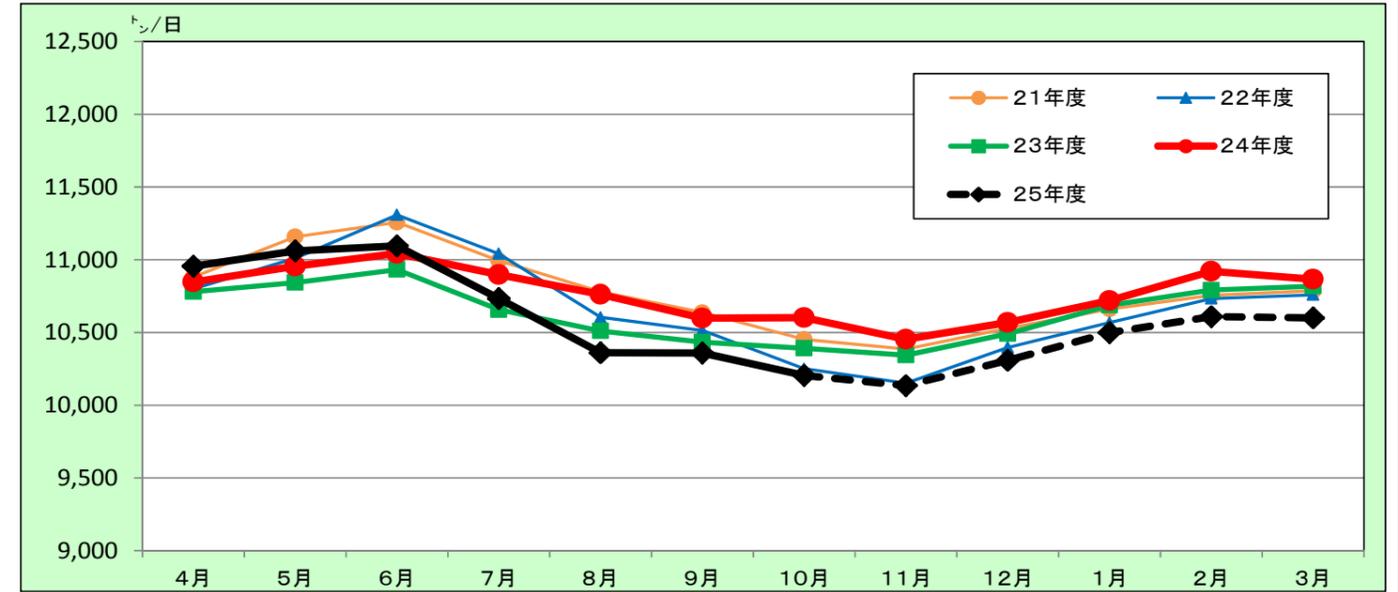
【生乳生産量の見通し】

直近 10 月までの実績を見ると、都府県だけでなく北海道においても 7 月以降、生乳生産が減少に転じ、その結果、全国ベースで 5 月以降は前年度を下回って推移している。

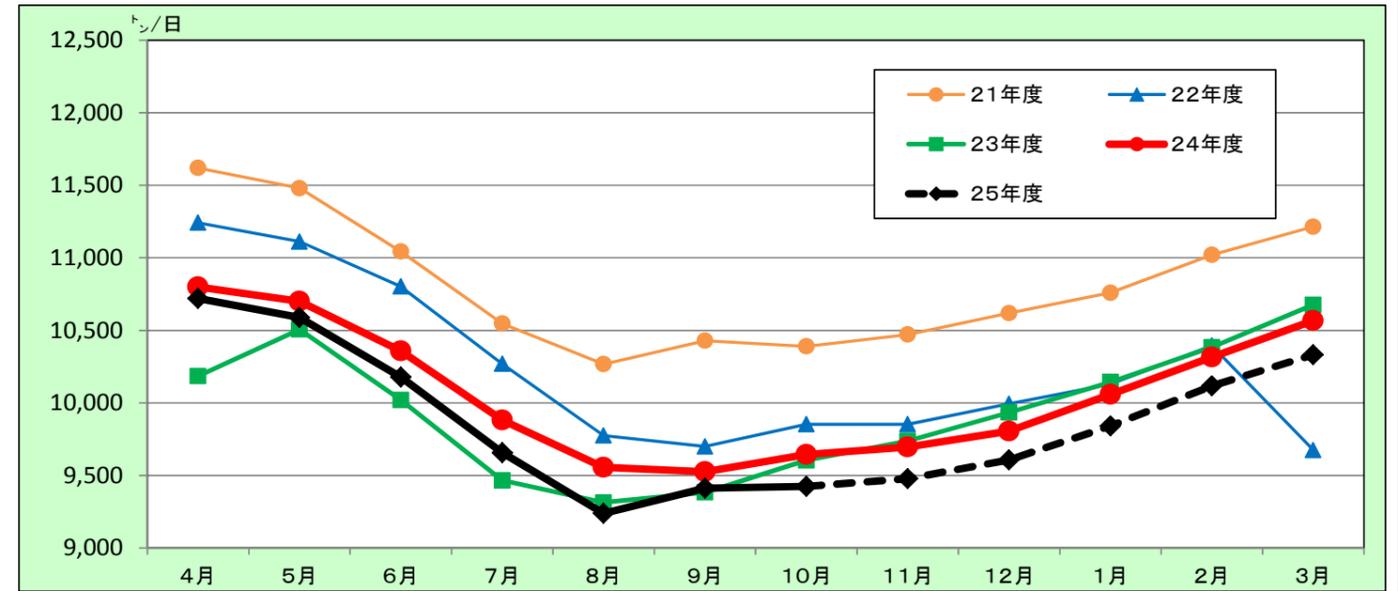
なお今後も、北海道・都府県ともに、飼養頭数が減少傾向で推移すると見込まれることなどから、生乳生産量は引き続き前年度を下回って推移すると見込まれる。

これらの結果、25 年度計では、北海道 3,860 千トン（前年比 98.2%）、都府県 3,606 千トン（前年比 98.1%）、全国 7,466 千トン（前年比 98.1%）と見込まれる。

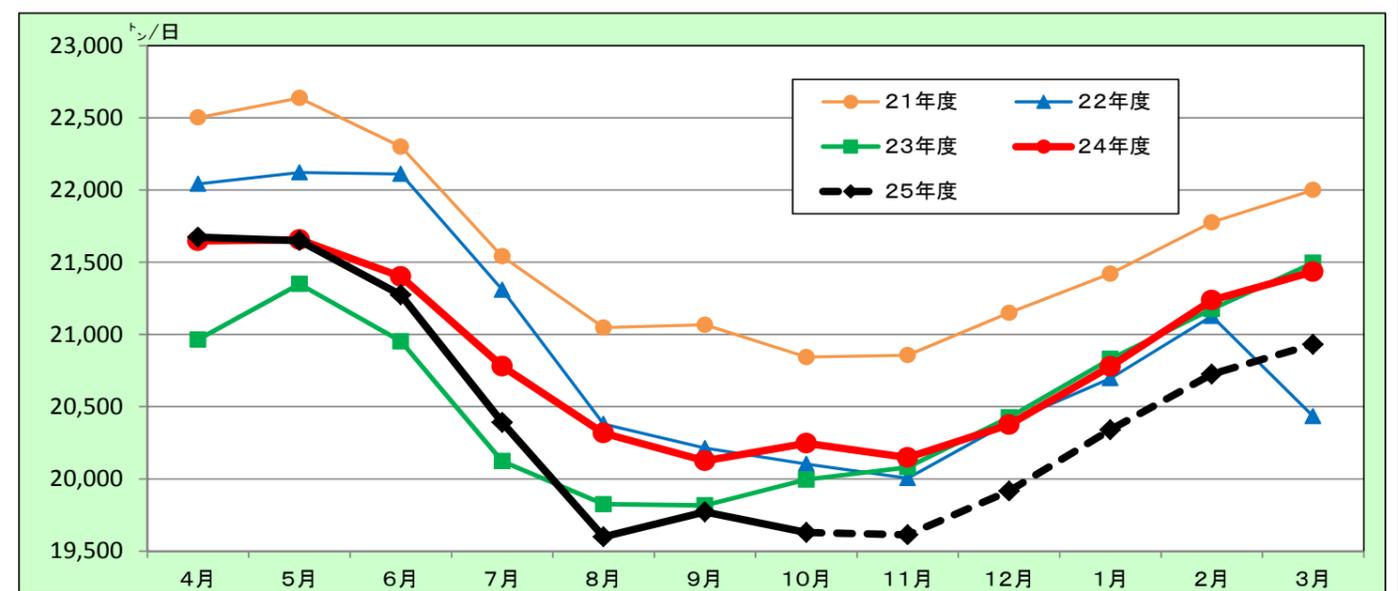
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル（ARIMA モデル）による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2：平成 25 年度の牛乳等生産量（見通し）

(千kl)

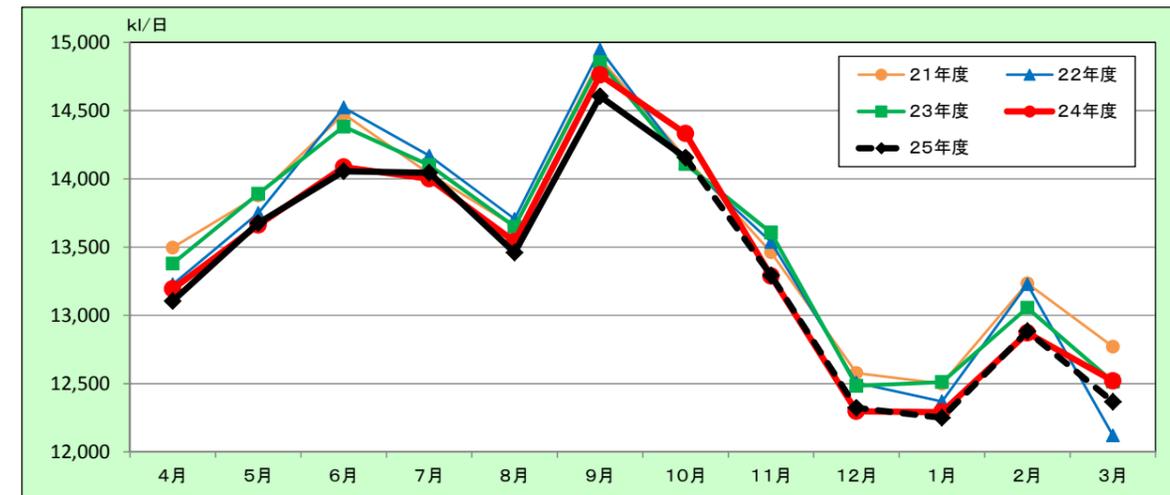
	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	393	99.3%	246	99.4%	11	82.9%	28	91.9%	109	103.4%	90	106.3%
5月	424	100.1%	265	100.2%	11	78.8%	29	92.0%	119	104.7%	91	102.3%
6月	422	99.8%	262	99.5%	10	87.4%	29	94.3%	120	103.0%	87	101.5%
7月	435	100.3%	263	100.2%	10	89.5%	31	93.8%	130	103.3%	88	101.2%
8月	417	99.4%	244	99.9%	10	90.0%	32	94.4%	131	100.5%	84	101.8%
9月	438	98.9%	273	99.3%	10	90.8%	30	93.5%	125	100.2%	84	100.2%
10月	439	98.8%	272	99.0%	11	90.1%	31	100.7%	125	98.6%	84	101.1%
11月	399	100.0%	253	98.8%	10	85.7%	29	102.5%	108	104.0%	77	100.7%
12月	382	100.2%	241	98.6%	10	80.8%	28	103.3%	103	105.8%	74	101.6%
1月	380	99.7%	239	98.3%	9	83.0%	29	105.7%	102	103.1%	78	100.4%
2月	361	100.1%	230	99.3%	9	86.0%	27	105.7%	95	102.0%	76	100.7%
3月	383	98.8%	236	98.2%	10	88.3%	29	103.8%	108	99.9%	87	96.7%
第1四半期	1,239	99.7%	773	99.7%	31	82.8%	86	92.8%	348	103.7%	268	103.3%
第2四半期	1,291	99.6%	780	99.8%	31	90.1%	93	93.9%	386	101.3%	256	101.1%
第3四半期	1,220	99.6%	766	98.8%	31	85.5%	88	102.1%	336	102.4%	234	101.1%
第4四半期	1,124	99.5%	705	98.6%	28	85.8%	85	105.0%	306	101.6%	241	99.1%
上期	2,530	99.6%	1,553	99.8%	63	86.3%	180	93.3%	735	102.5%	524	102.2%
下期	2,344	99.6%	1,472	98.7%	58	85.6%	173	103.5%	641	102.0%	475	100.1%
年度計	4,873	99.6%	3,024	99.2%	121	86.0%	352	98.1%	1,376	102.3%	1,000	101.2%

【牛乳等生産量の見通し】

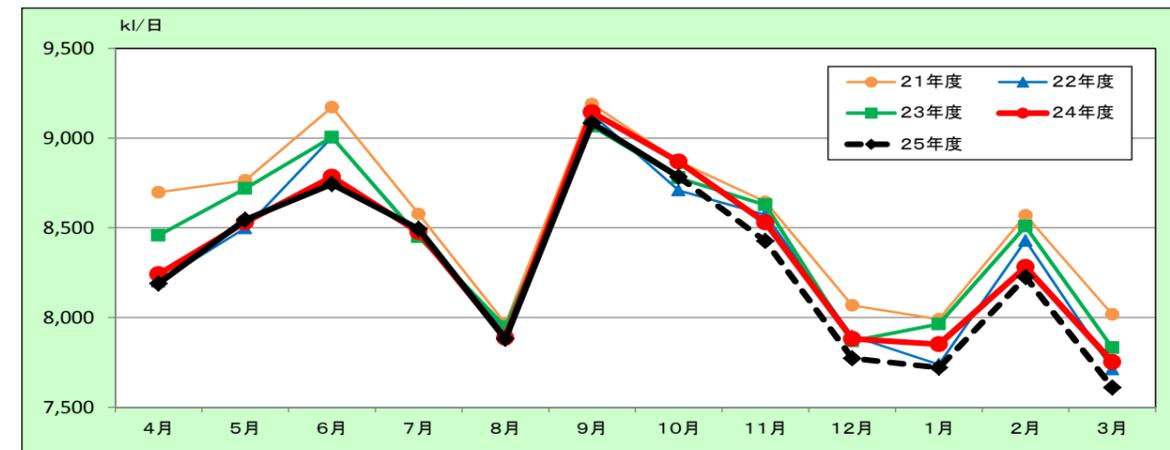
10月の実績を見ると、「牛乳」は、前年比 99.0%と比較的堅調に推移していることから、「牛乳類」においても、前年比 98.8%と、これまでのトレンドと大きな変化はない。また、「はっ酵乳」は、引き続き前年度を上回って推移している。

今後、小売価格改定の浸透度合い及びその影響について引き続き動向を注視する必要があるが、現時点までの動向を基に予測すると、25年度計で、「牛乳」は前年比 99.2%、「加工乳」は前年比 86.0%、「成分調整牛乳」は前年比 98.1%、「乳飲料」は前年比 102.3%、これら4品合計の「牛乳類」では前年比 99.6%と見込まれる。なお、「はっ酵乳」は25年度計で1,000千klに達し、前年比 101.2%と見込まれる。

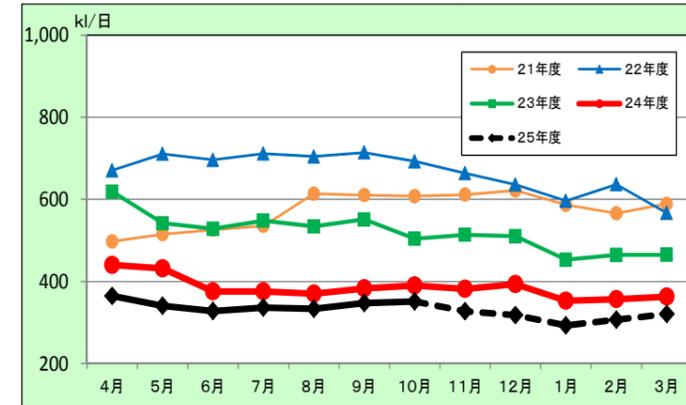
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



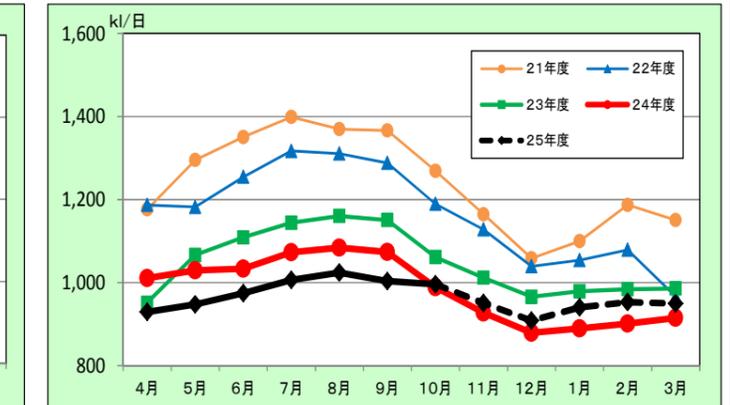
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



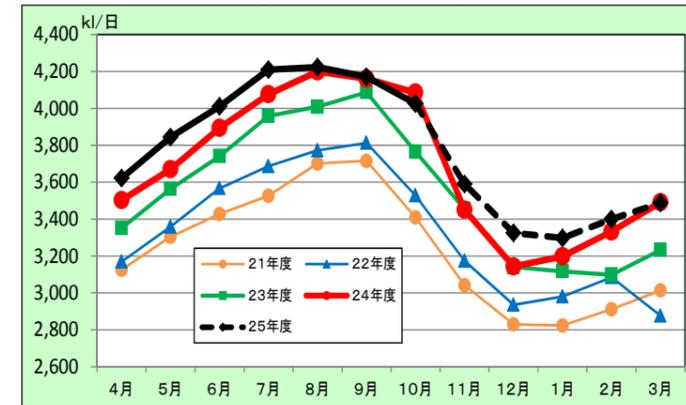
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



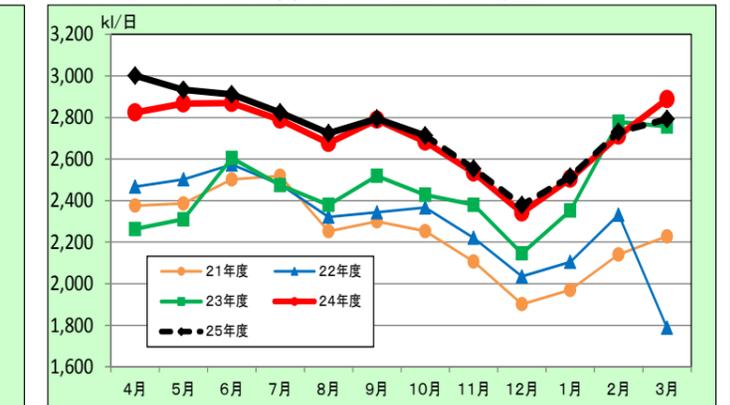
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成25年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

(千トン)

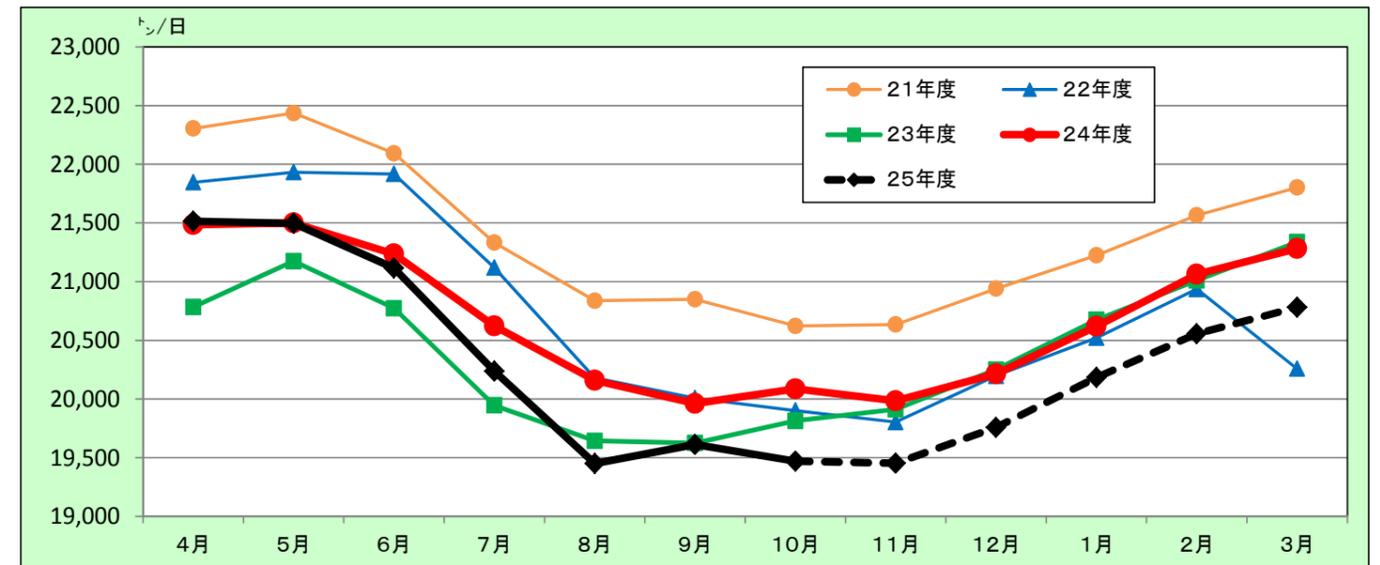
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	650	100.1%	5	98.0%	645	100.1%	324	98.9%	321	101.4%
5月	671	100.0%	5	97.8%	666	100.0%	346	98.8%	320	101.3%
6月	638	99.4%	5	95.2%	633	99.4%	346	98.6%	287	100.4%
7月	632	98.1%	5	97.7%	627	98.1%	350	100.4%	278	95.4%
8月	608	96.5%	5	94.9%	603	96.5%	329	99.0%	274	93.6%
9月	593	98.2%	5	97.6%	588	98.2%	354	97.9%	235	98.8%
10月	608	97.0%	5	99.2%	604	96.9%	350	98.3%	253	95.2%
11月	588	97.3%	5	97.3%	584	97.3%	325	98.8%	259	95.6%
12月	617	97.7%	5	97.7%	613	97.7%	308	98.8%	304	96.7%
1月	631	97.9%	5	97.9%	626	97.9%	316	98.7%	309	97.1%
2月	580	97.6%	5	97.6%	576	97.6%	299	99.4%	276	95.7%
3月	649	97.7%	5	97.7%	644	97.7%	314	98.0%	330	97.3%
第1四半期	1,960	99.8%	14	97.0%	1,945	99.9%	1,017	98.8%	928	101.1%
第2四半期	1,833	97.6%	14	96.7%	1,819	97.6%	1,032	99.1%	787	95.7%
第3四半期	1,814	97.3%	15	98.1%	1,800	97.3%	983	98.6%	816	95.9%
第4四半期	1,860	97.7%	14	97.7%	1,846	97.7%	930	98.7%	916	96.8%
上期	3,792	98.7%	28	96.9%	3,764	98.8%	2,049	98.9%	1,715	98.6%
下期	3,674	97.5%	29	97.9%	3,645	97.5%	1,913	98.6%	1,732	96.3%
年度計	7,466	98.1%	57	97.4%	7,409	98.2%	3,962	98.8%	3,447	97.4%

【用途別処理量の見通し】

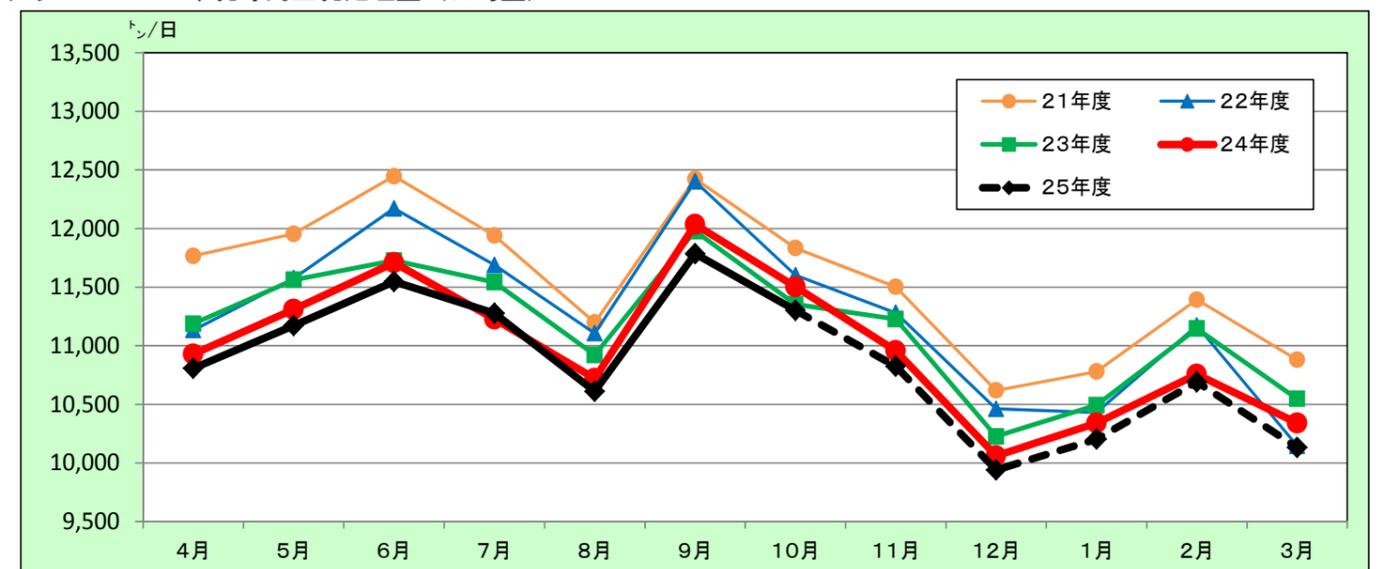
10月までの実績では、生乳供給量が6月以降は前年度を下回って推移している一方で、牛乳等向処理量の減少は大幅なものではないことから、乳製品向処理量も7月以降は前年度を下回って推移している。

今後においても、生乳供給量は前年度を下回って推移し、乳製品向処理量も引き続き前年度を下回って推移すると見込まれる。

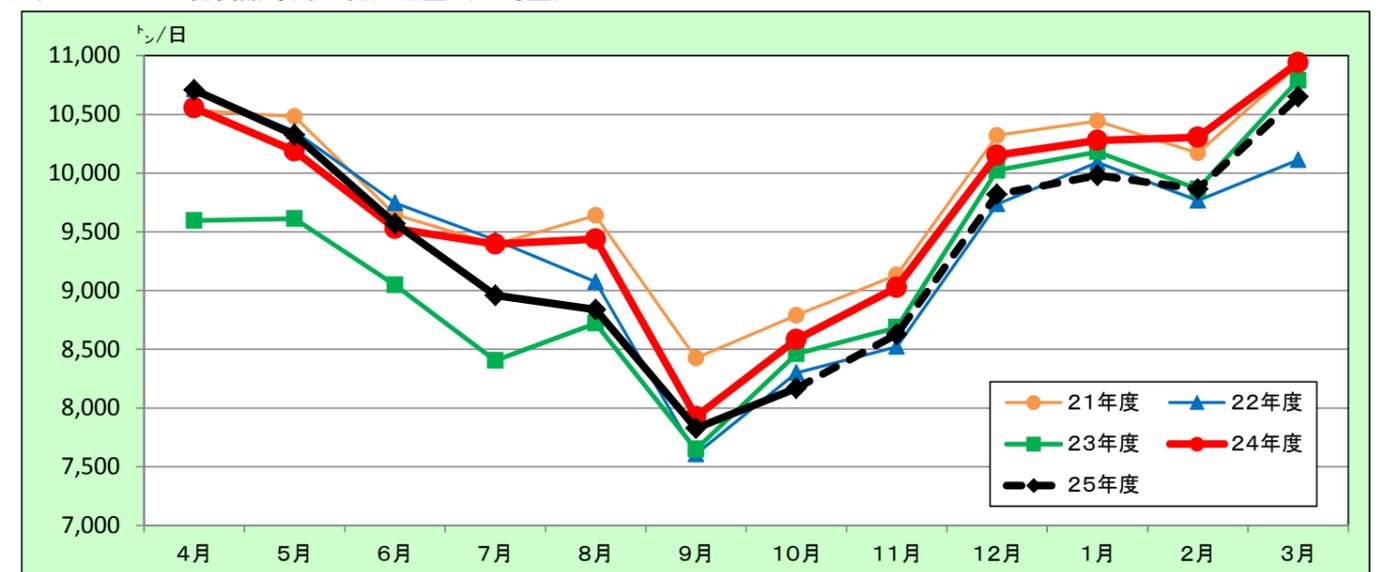
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。
 - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
 - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4：平成25年度の都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	4月	319	99.3%	281	98.9%	13		85.4%	25		19	94.0%
5月	326	99.0%	302	99.2%	14	95.6%	10	21	96.7%		31	97.6%
6月	303	98.3%	302	99.0%	13	92.8%	-13	29	98.7%	0	16	90.1%
7月	297	97.7%	303	100.5%	13	85.3%	-19	34	104.7%	0	15	76.1%
8月	284	96.7%	283	99.2%	14	85.9%	-13	32	103.4%	0	19	82.2%
9月	280	98.8%	307	98.0%	13	93.3%	-40	48	93.1%		8	106.4%
10月	290	97.7%	304	98.3%	14	91.2%	-29	39	97.4%		10	89.1%
11月	282	97.8%	281	98.7%	14	92.0%	-13	27	100.0%		14	90.1%
12月	295	98.0%	266	98.8%	15	91.4%	14	21	97.9%		35	95.0%
1月	303	97.8%	276	98.9%	13	91.3%	14	20	98.5%	0	34	93.0%
2月	281	98.1%	260	99.5%	12	91.7%	9	19	99.1%		28	89.8%
3月	318	97.8%	272	98.4%	14	91.4%	32	18	97.8%		50	97.6%
第1四半期	948	98.8%	885	99.1%	40	91.1%	22	69	96.8%	0	91	99.0%
第2四半期	861	97.7%	893	99.2%	40	88.0%	-72	113	99.2%	0	42	83.2%
第3四半期	867	97.8%	852	98.6%	44	91.5%	-28	87	98.3%		59	92.8%
第4四半期	901	97.9%	808	98.9%	39	91.4%	55	57	98.5%	0	112	94.1%
上期	1,809	98.3%	1,778	99.1%	81	89.5%	-49	182	98.2%	0	133	93.4%
下期	1,768	97.9%	1,659	98.7%	82	91.5%	27	143	98.4%	0	170	93.6%
年度計	3,578	98.1%	3,437	98.9%	163	90.5%	-22	326	98.3%	0	303	93.6%

【都府県の生乳需給の見通し】

今後の都府県の生乳需給は、生乳供給量及び牛乳等向処理量のいずれも前年度を下回って推移すると見込まれるが、生乳供給量の減少率の方が大きいことから、特定乳製品向処理量も、前年度を下回って推移すると見込まれる。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5：平成25年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4月	13.8		103.8%	0.0		12.2	95.9%	1.6
5月	13.1	103.8%	3.0	13.9	111.5%	2.2	53.2	4.6	110.2%
6月	10.8	103.8%	0.2	11.2	97.0%	-0.2	53.0	4.6	112.4%
7月	9.6	91.9%	1.5	13.4	105.7%	-2.2	50.7	4.4	113.0%
8月	9.4	88.6%		11.9	95.9%	-2.4	48.3	4.2	111.9%
9月	7.1	92.5%	0.2	11.5	102.9%	-4.2	44.1	3.8	111.1%
10月	8.2	88.3%		12.1	97.9%	-3.9	40.3	3.5	109.8%
11月	9.4	89.0%	0.0	11.1	104.8%	-1.7	38.6	3.3	105.4%
12月	13.7	92.6%		11.9	106.6%	1.8	40.4	3.5	100.4%
1月	13.7	93.9%		10.4	108.7%	3.3	43.7	3.8	96.6%
2月	11.3	90.9%		10.6	96.1%	0.7	44.4	3.8	95.2%
3月	14.0	94.2%		12.5	103.5%	1.5	45.9	3.9	92.8%
第1四半期	37.6	103.8%	3.2	37.3	101.5%	3.5	53.0	4.6	112.4%
第2四半期	26.1	90.9%	1.7	36.7	101.5%	-8.8	44.1	3.8	111.1%
第3四半期	31.2	90.4%	0.0	35.0	102.9%	-3.7	40.4	3.5	100.4%
第4四半期	39.0	93.1%		33.5	102.5%	5.5	45.9	3.9	92.8%
上期	63.7	98.1%	4.9	74.0	101.5%	-5.3	44.1	3.8	111.1%
下期	70.2	91.9%	0.0	68.5	102.7%	1.8	45.9	3.9	92.8%
年度計	134.0	94.7%	5.0	142.5	102.1%	-3.5	45.9	3.9	92.8%

グラフ5：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）

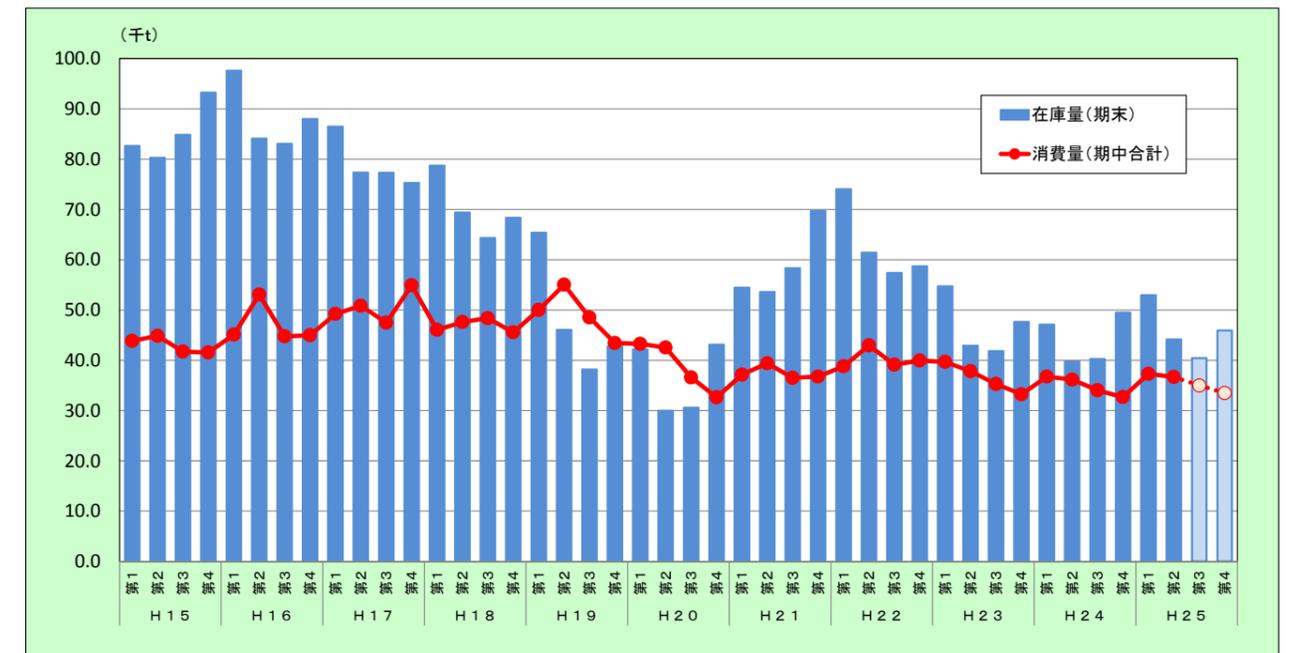
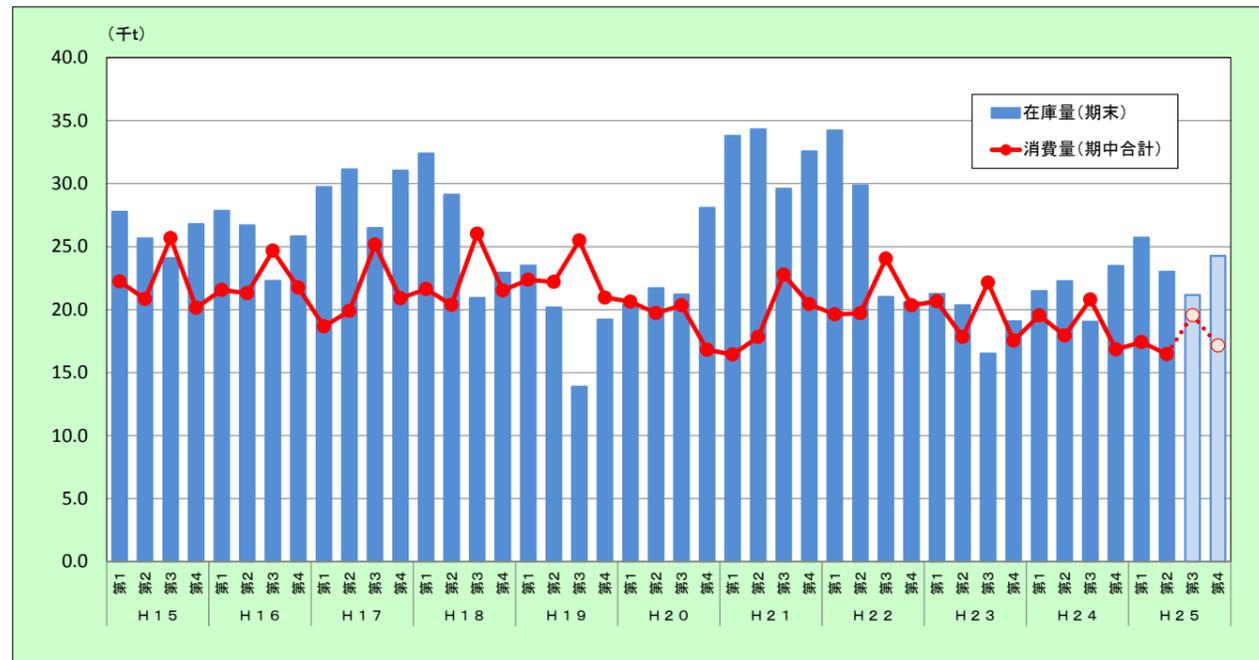


表6：平成25年度のバター需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	7.0	104.1%		6.1	95.8%	0.9	24.4	3.9	125.3%
5月	7.0	107.1%		5.5	87.0%	1.5	25.8	4.1	123.7%
6月	5.7	103.3%		5.8	85.1%	-0.1	25.7	4.1	119.7%
7月	5.1	94.4%		5.8	94.0%	-0.7	25.0	4.0	116.6%
8月	5.1	90.5%		5.7	94.8%	-0.6	24.5	3.9	111.0%
9月	3.6	96.2%	0.0	5.0	86.3%	-1.5	23.0	3.7	103.4%
10月	3.9	91.0%	0.0	5.5	99.4%	-1.6	21.4	3.4	101.0%
11月	4.4	91.1%	0.5	6.2	83.6%	-1.3	20.1	3.2	98.1%
12月	5.9	94.9%	3.0	7.8	100.3%	1.1	21.2	3.4	111.2%
1月	7.3	96.1%		4.6	95.8%	2.7	23.9	3.8	109.2%
2月	5.8	93.1%		5.6	93.6%	0.2	24.1	3.9	108.8%
3月	7.1	96.5%		7.0	114.9%	0.1	24.3	3.9	103.4%
第1四半期	19.7	104.9%	0.0	17.4	89.2%	2.2	25.7	4.1	119.7%
第2四半期	13.8	93.3%		16.5	91.8%	-2.7	23.0	3.7	103.4%
第3四半期	14.2	92.6%	3.5	19.6	94.1%	-1.8	21.2	3.4	111.2%
第4四半期	20.3	95.3%		17.2	101.9%	3.1	24.3	3.9	103.4%
上期	33.4	99.8%		33.9	90.5%	-0.5	23.0	3.7	103.4%
下期	34.5	94.2%	3.5	36.7	97.6%	1.3	24.3	3.9	103.4%
年度計	67.9	96.9%	3.5	70.6	94.0%	0.8	24.3	3.9	103.4%

グラフ6：バターの消費量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、生産量が前年度を下回って推移する一方、消費量は前年度を上回って推移すると見込まれ、その結果、25年度末における在庫量は減少し、45.9千トン（3.9か月分・前年比92.8%）と見込まれる。

バターについては、生産量は減少しているが、消費量も前年度を下回る水準で推移することが見込まれることに加え、12月までにカレントアクセス分輸入数量として3.5千トンが売り渡される予定となっていることから在庫量は増加し、第3四半期末（12月末）は21.2千トン（3.4か月分・前年比111.2%）、25年度末（3月末）は24.3千トン（3.9か月分・前年比103.4%）と見込まれる。

なお、25年度はカレントアクセス数量にまだ残量があるが、どの品目で輸入するか等についても未決定であることから、本需給表においても、残量分については見通しに織り込んでいない。

（カレントアクセス残量：生乳換算24,410トン、脱脂粉乳換算3,767トン、バター換算1,978トン）

6. 当面する課題と対応について

(1) 生乳の生産動向

生乳の生産は、乳牛資源が不足しているとともに、飼料価格も依然として高い水準にあるなか、猛暑や天候不順による自給飼料の作柄や牛体への影響等の要因も重なり、北海道・都府県ともに減少基調が続いている。

こうした状況は今後も継続することが見込まれることから、生乳生産基盤を確保・強化するための業界を挙げた対策の推進が26年度の喫緊の課題である。

(2) 牛乳類の消費動向

牛乳類などの消費は、出荷価格改定に伴う価格転嫁が進んでいるものと思われるが、これまでのところ、懸念されたほどには消費への影響が顕在化しておらず、牛乳及び牛乳類全体では比較的堅調に推移している。

今後は、26年4月の消費税増税の影響も踏まえつつ、引き続き、消費者への理解醸成及び牛乳乳製品の価値訴求を中心とした消費拡大の取り組みを業界全体で推進していくことが重要である。

(3) 牛乳類の不需要期における的確な対応

現在の需給状況を踏まえると、特定乳製品向処理量は、当面、前年度を下回って推移するものと見込まれる。しかしながら、近年における都府県の乳製品向処理可能量が減少していることに加え、今年度は年末年始については休日期間が比較的長くなっていることなどから、年末年始や春休みなどの特定乳製品向処理が集中する期間においては特に、的確な配乳計画や処理計画を策定し、日々の需給動向や加工向処理の発生状況等の情報共有化に努めることが重要である。

以上